

レイジングV 世界へ一歩 「八千代からチャンプを」斉藤司選手

八千代市在住のプロボクサー斉藤司選手(19)(三谷大和ジム所属)が、A級ライセンス選手によるトーナメント「レイジングバトル」の60キロ級で優勝、大会の最優秀選手に選ばれた。貧しい境遇に育ち、「家族を楽にさせたい」とプロボクシングの道を選んだ斉藤選手は、デビュー以来12戦負けなし。周囲では「八千代から世界王者を」との声も上がっている。

レイジングバトルは、通常8ラウンド以上を戦うA級ライセンスの選手が、4ラウンドで賞金をかけて争うためKOが出やすい。25日に東京・後楽園ホールで行われた原純平選手(横浜・大橋ジム)との決勝では互いに一歩も引かず、壮絶な打ち合いの末、斉藤選手が3-0で判定勝ち。涙を流して三谷大和会長(39)と抱き合った。

「家族を幸せにするためにボクシングをやっている。会長と世界目指して突っ走ります!」。優勝インタビューに、観客から大きな歓声と拍手がわき起こった。

5人兄弟の四男。「殴り合いでお金がもらえる」。ボクシング漫画やテレビの試合中継を見て興味を持ち、三谷ジムの門をたたいたのは小学6年の時。母子家庭で生活保護を受け、ご飯にきなこをまぶしただけの夕食が出るような貧困ぶりだったという。中学2年からジムに住み込み、2007年にプロデビュー。音信不通だった父がホームレス状態で亡くなったという悲報も乗り越え、08年に全日本フェザー級新人王を獲得した。現在は八千代市内の食品メーカーに勤め、和菓子の製造ラインで働いた後、練習に汗を流している。

「背負っているものが違うから、打たれても絶対に下がらない。こんなにハングリーなやつはいない」と三谷会長。斉藤選手は「優勝はあくまで通過点。世界王者になり、家族を幸せにしたい」と目標をしっかりと見据えている。

地元も後押ししており、決勝には豊田俊郎市長や上代(かじろ)修二・八千代商工会議所会頭らが駆けつけ、「八千代の星」と書いた横断幕を掲げて応援した。

三谷ジムによると、斉藤選手は強さが知られて試合を組むのを敬遠されるケースも多く、いまだにノーランカー。将来、タイトル戦に挑むためにも、海外の選手を招いて試合を組むことも考えているという。

(2010年6月29日 読売新聞)



優勝インタビューに答える斉藤選手

(25日、東京・後楽園ホールで)